

2009年度

科目名	心理学演習 I B		
担当教員	井上 徹		
配当	人社3	コード	25220
開期	後期	講時	火曜日5限
		単位数	2
授業テーマ	心理学研究に利用される多変量解析の実際		
目的と概要	心理検査における項目作成や、態度調査の結果分析に必要な多変量解析法を、実際のデータ分析を通して理解することを目的とします。多変量解析法について概観した後、重回帰分析、因子分析、クラスター分析、共分散構造分析、さらに数量化 I、II、III類について、統計パッケージを用いて、実際のデータを、受講生自らが分析します。それによって得られた出力結果に基づいて、それぞれの解釈のポイント、留意点を解説していきます。		
成績評価法	レポート(70%) + 平常点(30%) + 質問などを通して垣間見る、理解への意欲度も加味します。		
テキスト	授業中にプリントを配布します。		
参考書			
履修に当たっての注意・助言			
講義計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多変量解析法とは何か</li> <li>2. 重回帰分析(1) 重回帰分析法の意味、調査事例</li> <li>3. 重回帰分析(2) SPSSを用いた重回帰分析</li> <li>4. 重回帰分析(3) 結果の解釈</li> <li>5. 因子分析(1) 因子分析法の意味、調査事例</li> <li>6. 因子分析(2) SPSSを用いた因子分析</li> <li>7. 因子分析(3) 結果の解釈</li> <li>8. クラスター分析(1) クラスター分析法の意味、調査事例</li> <li>9. クラスター分析(2) SPSSを用いたクラスター分析</li> <li>10. クラスター分析(3) 結果の解釈</li> <li>11. 共分散構造分析(1) 共分散構造分析の意味、調査事例</li> <li>12. 共分散構造分析(2) Amosを用いた共分散構造分析</li> <li>13. 共分散構造分析(3) 結果の解釈</li> <li>14. その他の多変量解析法 数量化 I、II、III類</li> <li>15. 多変量解析法についてのまとめ</li> </ol>			